

2014年度次世代ワークショップ企画自由課題・自由開催枠

企画責任者：辛嶋博善(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)

近現代モンゴルにおける人間＝環境関係の変容

2015年1月11日に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおいてワークショップを開催した。

第1セッション「社会主義時代の牧畜を比較する」では、「牧畜のインヴォリューション？ーモンゴル国北東部・ヘンティー県の事例から」(辛嶋博善・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)、「モンゴルの牧畜は生業的かー畜産物としての畜糞利用より」(風戸真理・北星学園大学短期大学部)、「モンゴル国南東部国境地域における牧畜ースフバートル県の事例」(尾崎孝宏・鹿児島大学法文学部)、「モンゴル国北部地域における集団化と土地利用ーボルガン県の事例をもとに」(富田敬大・立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構・専門研究員)、第2セッション「社会主義の牧畜を歴史、環境から考える」では、「社会主義時代における牧畜と草資源利用の一例ーゴビ地域を中心に」(中村知子・茨城キリスト教大学文学部)、「清代モンゴル遊牧社会と王公『支配』ー所有、移動、調整をめぐって」(中村篤志・山形大学人文学部)、「モンゴル遊牧社会を支えてきた草原土壌と水文環境ーモンゴル国北東部ヘルレン川流域の事例」(浅野真希・筑波大学生命環境科学研究科)の計7本の研究発表を行った。

これらの発表に対して、滝口良(北海道大学大学院文学研究科)、小野有五(北星学園大学経済学部経済学科)両氏からのコメントを得た。本ワークショップを通じて、社会主義時代のモンゴルの牧畜の実態、特に地域的な偏差を解明する足掛かりを得ることができた一方、1950年代以前、すなわち協同組合化以前から清朝末期の間の実態が不明であることなど、今後の課題も明らかにされた。